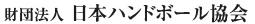
財団法人 日本ハンドボール協会編　平成23年 5月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻518号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

特集

第35回日本リーグ

東日本大震災からの復興に向けて
海外からの応援メッセージ

MAY.2011・No.518

［表紙写真:第35回日本リーグ表彰選手。左上·男子最優秀選手賞·宮﨑大輔(大崎電気)、右上·男子最優秀新人賞·東長濱秀希(大崎電気)、左下·女子最優秀選手賞·上町史織(北國銀行)、右下·女子最優秀新人賞·石坂美奈子(三重バイオレットアイリス)］

財団法人 日本ハンドボール協会

復活！！ 日本

(財) 日本ハンドボール協会副会長　**多田　博**

先ず始めに、今なお東日本大震災により被害を受け、大変な生活を強いられている方々に心からお見舞い申し上げます。また、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。ハンドボールの仲間の中にも被害に遭われた方々がおられ、その関係者も含めお見舞い申し上げますとともに、早い復興をお祈りいたします。

復活！！　日本　は、6月に予定されていた「ジャパンカップ」のキャッチフレーズです。それに因み、思う所を述べさせていただきます。

日本はこれまで、国の存続を問われるような過酷な状況に何度もあってきました。

小さな国土で資源もない日本ですが、世界の中で生き残って来られたのは、日本人の持つ前向きに問題を解決する特質と徳育の高さが、日本を何度もあった苦難を乗り越えて、常に新しいより良い状況に導いてきたのだと思います。

今回の大震災でも、テレビで報道された東北地方の被害者の方々の態度は、我々日本人でも感動いたしました。大きな被害を受けている方々が、自分よりもまだ被害のある方の事を思い譲ろうとするその姿を世界中の人が見て、何故日本人はあの混乱の中であんなに優しく振舞えるのかと驚き称賛をしています。東北の方々の態度は日本人の原点だと思います。日本では昔より「和」を尊ぶ精神が醸成されています。東日本大震災は未曾有といわれる規模のものでありましたが、それとて日本人の特質である前向きに解決する力とお互いを思いやり「和」の精神で纏まりあう力で、日本はこれからの復興復活を確実に実行すると確信しています。

さあ　これからです。　**復活！！　日本**

日本ハンドボールは、「1988年ソウル大会」以来オリンピックに出場していません。

今年10月に、「2012年ロンドン大会出場」をかけて、男子は韓国で、女子は中国でアジア地区のオリンピック予選大会が開催されます。アジアから一カ国しか出場枠が無い以上、優勝するしかオリンピック出場が果たせません。

この4年間、前回北京オリンピック出場を逸して以来、日本ハンドボール協会はベクトルを強化に集中し、ロンドンオリンピック出場に方向を合わせてきました。日本代表チームは、これまでこれに備えて猛練習をしてきております。昨年9月のアジア大会では、男子は惜しくも準決勝で敗退し3位でした。女子は、準決勝で宿敵韓国に勝って決勝戦に臨むも予定外の中国に敗れ準優勝でした。

現在、男子・女子共に日本代表チームはオリンピック出場に手の届く所まで来ています。

今年こそ、日本人固有の国難にあたって前向きに解決する力と「和」の精神で纏まり、全力を出す特質を生かした日本独特の戦い方で、予選を勝ち抜きオリンピック出場を果たし、震災の影響で少し暗くなっている日本を元気づけてほしいと思います。

復活！！　日本

東日本大震災からの復興にむけて

東日本大震災の被災の様子は海外にも広く報道がされており、欧州のハンドボール選手などから応援のメッセージを頂きました。ハンドボールを通じて支援の輪が広がっていることに改めて勇気付けられると共に、強く生き**「復活！！　日本」**を早期に果たすべく邁進していきましょう。

ラルス・ラスムセン（デンマーク）

この度の出来事に大変心を痛めております。
日本の皆さまへ、どうかご家族がご無事でいらっしゃいますように。
そして、平穏な日々が早く戻りますように。
頑張って下さい。

リュボミール・ブラニエス（スウェーデン）

大変な災害に見舞われてどれだけお辛くていらっしゃるかと心を痛めております。
でも、顔を上げて前を向いて下さい。
心が折れそうになってもあきらめないで下さい。
スポーツを通じて我々の心はひとつです。
どうか日本のみなさんが早く元気を取り戻されますように。
そして、日本代表チームはオリンピック予選を勝ち抜きますように。
ロンドンで会いましょう。

タマス・モチアイ（ハンガリー）

日本のハンドボール仲間のみなさんへ
世界選手権で戦ったように全力で立ち向かって下さい。
ベストを尽くして下さい。

マッツ・スベンソン（スウェーデン）

日本の皆さま、天災で被害に遭われた方々へお見舞い申し上げます。
皆さまのご無事と一刻も早い復興を心より願っております。
皆さまならきっとこの困難に打ち勝って下さると信じております。
少しでもお力になれるようパワーを送ります。

選手のみなさんへ
スウェーデンの世界選手権のような素晴らしい試合を近いうちにまた拝見できることを願っています。
元気を出して下さい。
ファイトですよ！

アルノル・アトラソン（アイスランド）

日本の皆さまのご無事を願うとともに心よりお見舞い申し上げます。
皆さまが力を合わせてこの困難に立ち向かい、
必ず復興されると信じております。
心は日本の皆さまとともにあります。

海外からの応援メッセージ

スノリ・グズヨンソン（アイスランド）

日本の皆さまへ謹んでお見舞い申し上げます。
とんでもないことが起こってしまいましたが、
どうかお気持ちを強く持って困難に打ち勝って下さい。
頑張って下さい。

ミケル・ハンセン（デンマーク）

日本のみなさん、日本のハンドボール仲間のみなさんへ
この度の震災に心より深くお見舞い申し上げます。
どうかお気持ちを強くもって、困難に立ち向かって下さい。
日本は素晴らしい国です。
いつまでも立ち止まっていないで必ず復興されると信じています。
みなさんを思って祈ります。

キャスパー・ヴィット（デンマーク）

日本のハンドボール仲間のみなさんへ
みなさんがご無事でいらっしゃることを願っております。
どうか元気を出して頑張って下さい。

日本の皆さまへ
震災で被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。
少しでも早く状況が改善されますように。
そして皆さまが日常を早く取り戻せるよう願っております。

クラブス・ヨルゲンセン（デンマーク）

日本のハンドボール仲間のみなさんへ
ここデンマークで日本の震災を知りました。
みなさんやみなさんのご家族がどうかご無事でいらっしゃいますように。
そしてみなさんの落ち着いた日々が早く戻ることを願っております。

代表チームの皆さんへ
次の世界選手権ではもっと強いチームになっていらっしゃることでしょう。
対戦を楽しみにしています。頑張って下さい。

ニコライ・プロストロム（デンマーク）

日本のみなさんへ
この度の震災に心よりお見舞い申し上げます。
本当に信じられないことが起こってしまいましたが、
私の心はみなさんとともにあります。
どうか元気を出してこの困難に負けないで下さい。

代表チームのみなさん、日本のすべてのハンドボール仲間のみなさんへ
ハンドボールという素晴らしいスポーツを通じて互いに支えあい、この困難を乗り越えて下さい。ハンドボールで日本の皆さんに元気を与えて下さい。
熱く闘う気持ちで頑張って下さい。

第35回 日本ハンドボールリーグ

3月11日に発生した東日本大震災に伴い第35回日本リーグプレーオフは中止となり、レギュラーシーズンの順位が第35回大会の最終順位となりました。

男子：大崎電気、女子：北國銀行が優勝

第35回日本ハンドボールリーグを終えて

日本ハンドボールリーグ機構 GM　**家永 昌樹**

去る3月11日に発生致しました東日本大震災により被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられました方々に哀心より御冥福をお祈り申し上げます。

レギュラーシーズンでは全国各地で気迫あふれるプレーが見られ、開催地協会の皆様の地道な努力と相まって、例年以上に盛り上がり、来場者数は昨年よりも1試合平均で約100名も上回りました。

シーズン前の開催地責任者会議では、今シーズンは興行性を上げることを目標にかかげ、皆様一丸となって取り組んでいただきました。その甲斐あって、開幕戦での山鹿大会、2月の大阪大会では2,000名を超えるファンにお越しいただき、その他にも1,000名を超える会場が多くあり、盛り上がった大会になりました。また初めて沖縄県の離島・宮古島でも開催、地元の方々の熱意を感じました。

毎年開催していただいている会場も年々興行性が高まり、色々なイベントも開催され、充実した大会を開催していただいております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

選手も開催地の方々と協力をして、開催地での講習会に積極的に参加したり、サイン会などのファンサービスに協力するなど、来ていただいた皆様に喜んで頂くように努力をしております。

また、ハンドボール界に多くのOB・OGの方々がおられます。しばらくハンドボールから離れておられたOB・OGの方々にもぜひ会場に足を運んでいただき、その時に今までハンドボールを見たことのない方を誘っていただければ、新しいハンドボールファンの開拓につながるものと思います。

日本リーグは多くの全日本代表選手が所属しています。質の高いハンドボールを繰り広げますが、厳しいファンの目も重要です。皆様がより高いハンドボールを追求することで、競技力の向上に繋がります。また、多くのファンの方々で会場を埋めていだき、盛り上げていただくと選手のパフォーマンスもより一層高くなります。

来シーズンも是非、会場に足を運んでいただき、ハンドボール会場を盛り上げてくださるようお願い申し上げます。

ファン・チーム・審判・主催者が一体となったハンドボール会場作りを目指したいと考えております。

今シーズンは震災の影響により残念ながらプレーオフが急きょ中止となったため、レギュラーシーズンの順位を最終順位と致しました。

	順位	チーム
男子：	優勝	大崎電気
	2位	湧永製薬
	3位	大同特殊鋼
	4位	トヨタ紡織九州
	5位	トヨタ車体
	6位	琉球コラソン
	7位	豊田合成
	8位	北陸電力
女子：	優勝	北國銀行
	2位	ソニーセミコンダクタ九州
	3位	広島メイプルレッズ
	4位	オムロン
	5位	三重バイオレットアイリス
	6位	ＨＣ名古屋

※大崎電気は6年ぶり2回目の優勝、北國銀行は初優勝。

ハンドボールリーグはスポーツを通じて、復興に寄与していきたく思います。

一日も早い復興を願い、また全国の皆さんが笑顔でハンドボールができる日が一日でも早く来るように願っております。

男子優勝：大崎電気

大崎電気ハンドボール部監督　岩本 真典

この度、東日本大震災により被災された皆様とそのご家族の方々及び関係者の方々へ、心よりお見舞い申し上げます。

はじめに、第35回日本リーグを開催するにあたりご尽力いただいた日本ハンドボールリーグ機構、（財）日本ハンドボール協会、ならびに関係各位の皆様に改めて心より厚く感謝、御礼申し上げます。

私たち大崎電気は第35回日本リーグにおいて6年ぶり2回目の優勝を果たすことが出来ました。

これも一重に日頃から大崎電気ハンドボール部を支えてくださっている渡邊オーナーをはじめ社員の皆様、そして多くのファンの方々の力あってこその結果だと思っております。

そして何より選手20名の努力の賜物だと思っております。

長いシーズン怪我もありながら本当にチームの為に最善を尽くし、選手全員が役割を果たし、ひとつになって一戦一戦大きな力を発揮し、成長してくれたことに感謝します。

しかし、現在の社会情勢を鑑み第35回日本リーグのプレーオフ開催が延期、中止になり準備にご尽力いただいた関係各位の皆様、それを目標に努力してきた他チームも含めた選手達の心中を察するに遺憾でなりません。

レギュラーシーズン1位が優勝という形になりましたがプレーオフでの決着はついていませんし、昨年の悔しい思いは晴れていません。

しかしながら選手が一年間残してきた結果、それをサポートしてきたスタッフの並々ならぬ努力には敬意を表したいとも思います。

来シーズンもチャレンジャーとして～継続～「CONTINUE」をテーマにこれまで以上の努力を重ねて、安定した力を発揮し継続して勝てるチームを目指し、日々精進していきます。

今後とも、大崎電気ハンドボール部を宜しくお願い致します。

大崎電気ハンドボール部　東長濱 秀希

はじめに、東日本大震災により被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、１日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

昨年９月に始まった第 35 回日本ハンドボールリーグも３月で終了し、大崎電気が６年ぶり２回目の優勝を果たしました。昨年からのメンバーに加え、今シーズンからコーチに就任した佐藤さん、新人の４人、スペインから帰ってきた宮﨑選手を含めたチーム全員が一丸となって今回の優勝を勝ち取れたことは非常に嬉しく思います。自分自身にとってはルーキーイヤーとなったシーズンで慣れないことが多く、チームにたくさんの迷惑をかけました。しかし恵まれた環境の中、新人賞とベストセブンの個人タイトルを獲得することができたため感謝と喜びの気持ちでいっぱいです。

シーズンを振り返ると開幕戦で行われたトヨタ車体との一戦に勝利できたことがとても大きかったように思えます。開幕戦に勝利できたことでチームが波に乗り、開幕９連勝することができました。長いシーズンの初戦の大切さを知ることができた試合だったと思います。しかし、シーズンを通して安定した力が発揮できたかというと、そうではなかったかと感じます。トヨタ車体、湧永製薬に敗れるなど、悪い流れを変えられず負けてしまう試合もありました。本当の意味で強いチームになるには、自分自身まだまだ課題がたくさんあるように感じました。本当に強いチームになれるよう、これまで以上に努力していきたいと思います。

４月からは新チームでのシーズンも始動しますし、今年はロンドンオリンピックの予選イヤーにもなります。後悔のない１年にするために一生懸命頑張ります。応援してくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに精一杯走りたいと思いますので、これからも応援よろしくお願いします。

最後に第 35 回日本ハンドボールリーグを開催するにあたり、ご尽力いただきました関係者の方々、会場まで足を運んでご声援くださった方々に心より感謝を申し上げます。

女子優勝：北國銀行

北國銀行ハンドボール部監督　荷川取 義浩

はじめに、この度の東日本大震災の犠牲者の方々に心からご冥福をお祈り申し上げます。また、被災者の皆様方へ心よりお見舞い申し上げますと共に被災地の１日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、３月 12 日・13 日に行なわれる予定でありましたプレーオフが、東日本大震災の影響で中止が決定し、第 35 回日本ハンドボールリーグはレギュラーシーズンの結果をもって最終順位が決定、悲願の初優勝となりました。

長年に渡り、サポーター、石川県ハンドボール協会、ご家族の皆様のご声援、ご協力を受け、また米谷オーナー・深山会長・安宅頭取・村上 GM をはじめとする銀行側の強力なバックアップを頂きながら、ご期待に応えることが出来ず、申し訳ない気持ちで一杯でした。

今回の初優勝を皆様方へご報告できた事が何よりの喜びです。チーム一同、心より感謝申し上げます。

またもう一つの喜びは、日本リーグに外国人選手が登録された第４回大会から第 34 回大会の間、外国人選手が加入しているチームが優勝していましたが、今大会において日本人

だけでの優勝を目指し、達成出来た事です。

今大会の初優勝までを振り返りますと楽な試合は1試合も無く、常に全員で戦い、乗り切ってきた大会でした。それは、仲宗根の怪我による長期離脱に始まり、樋口の登録問題による欠場、エース上町のまさかの利き手骨折による離脱と、メンバー構成に苦労したことです。

しかし、幾多のピンチの連続にも主将・田代が体を張ったキーピングで助け、プレーでチームを引っ張り、チーム全体がまとまり、また起用した選手がものの見事に活躍した事が大きな原動力になったと思います。そして、皆様方のご声援が選手達を後押ししてくださった事も大きな要因でした。この場をお借りしまして、心より御礼申し上げます。

このようなチーム力で勝ち取った優勝を誇りに思います。

しかし、この優勝に満足することなく、更に精進を重ねて参る所存ですので、皆様方の変わらぬご支援・ご声援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

最後に今一度、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

北國銀行ハンドボール部　上町 史織

北國銀行創部以来、日本リーグ初優勝をすることができました。応援して下さった皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。今回の優勝は震災の影響でプレーオフをすることができず、レギュラーシーズンの結果が反映されての優勝でした。プレーオフで勝って優勝を決めたかった悔しい気持ちが大きいですが、レギュラーシーズンでの1試合、1試合を勝ち続けた全員の頑張りがあっての優勝なので、うれしく思います。

今シーズンは、どの試合もケガや選手登録の関係上ベストメンバーが揃ってのゲームがほとんどできませんでした。そんな中、試合に出たメンバーの頑張りで積み重ねた勝ち星は私たちの自信にもなりました。誰が試合に出てもチームのレベルが落ちないことは私たちのチーム力を鍛えてきた結果だと思います。今回私は最優秀選手賞をいただくことができました。シーズン中、右手の骨折をして試合に出られなかった時期があったので、この受賞の知らせを聞き、正直私がもらっていいのだろうかという思いと驚きの気持ちが大きかったです。しかし、シーズン中のケガを乗り越え思い切りプレーすることができ、この賞を受賞することができたのも、チームスタッフ・選手をはじめ、たくさんの方々の支え・励ましがあったからです。本当に感謝しています。ありがとうございました。

東日本大震災では私の故郷、岩手県も大きな被害を受けました。信じられない映像をテレビ画面で目にする毎日。心がしめつけられ、涙が止まりませんでした。毎日ハンドボールをできる喜び。家族が元気で、毎日ごはんを食べられるごく普通の生活がどれだけ幸せなことなのか…。今できることは、無駄のない生活をしていくこと。ハンドボールをできるこの環境に感謝すること。もっともっとがんばって、良い結果を残すことで故郷に元気を与えられたらと思います。個人的にもチームとしてもまだまだ成長できる部分があると思います。さらにいいチームを作り日本リーグ2連覇できるように、頑張っていきたいと思います。今後も温かい応援をよろしくお願いします。

第 35 回日本ハンドボールリーグ成績表　レギュラーシーズン日程終了

【男　子】

順	位	大　崎	湧　永	大　同	紡　織	車　体	琉　球	合　成	北　電	数	勝	分	敗	得点	失点	差	勝点
1.	大崎電気		34 27 ○ ● 30 29	30 34 ○ ○ 27 29	37 40 ○ ○ 35 35	32 22 ○ ● 30 28	44 32 ○ ○ 28 26	43 37 ○ ○ 33 35	34 38 ○ ○ 24 25	14	12	0	2	484	414	70	24
2.	湧永製薬	30 29 ● ○ 34 27		22 37 ● ○ 27 17	26 33 △ △ 26 33	29 30 ○ ○ 28 25	28 33 ○ ○ 21 17	28 32 ○ ○ 22 21	24 30 ○ ○ 21 19	14	10	2	2	411	338	73	22
3.	大　同 特殊鋼	27 29 ● ● 30 34	27 17 ○ ● 22 37		26 32 ○ ○ 25 24	31 25 ○ ● 26 27	31 32 ○ ○ 21 24	27 31 ○ ○ 26 23	26 31 ○ ○ 19 23	14	10	0	4	392	361	31	20
4.	トヨタ 紡織九州	35 35 ● ● 37 40	26 33 △ △ 26 33	25 24 ● ● 26 32		33 32 ○ △ 30 32	28 32 ○ ○ 22 26	41 37 ○ ○ 29 26	32 30 ○ ○ 23 20	14	7	3	4	443	402	41	17
5.	トヨタ 車　体	30 28 ● ○ 32 22	28 25 ● ● 29 30	26 27 ● ○ 31 25	30 32 ● △ 33 32		31 30 ○ ○ 22 23	36 29 ○ ● 24 30	27 32 ○ ○ 26 19	14	7	1	6	411	378	33	15
6.	琉　球 コラソン	28 26 ● ● 44 32	21 17 ● ● 28 33	21 24 ● ● 31 32	22 26 ● ● 28 32	22 23 ● ● 31 30		32 33 ○ ○ 30 29	26 27 △ ○ 26 20	14	3	1	10	348	426	-78	7
7.	豊田合成	33 35 ● ● 43 37	22 21 ● ● 28 32	26 23 ● ● 27 31	29 26 ● ● 41 37	24 30 ● ○ 36 29	30 29 ● ● 32 33		25 34 ● ○ 26 27	14	2	0	12	387	459	-72	4
8.	北陸電力	24 25 ● ● 34 38	21 19 ● ● 24 30	19 23 ● ● 26 31	23 20 ● ● 32 30	26 19 ● ● 27 32	26 20 △ ● 26 27	26 27 ○ ● 25 34		14	1	1	12	318	416	-98	3

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表し、左側がホーム，右側がアウェイの結果を表す。

【女　子】

順	位	北國銀行	ソ ニ ー	メイプル	オムロン	三　重	HC 名古屋	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	北國銀行		28 23 21 ○ ● ○ 26 26 17	26 28 27 ○ ○ ○ 21 23 24	23 20 18 ○ ● ● 20 23 25	27 28 41 ○ ○ ○ 23 17 18	27 25 33 ○ ○ ○ 17 12 21	15	12	0	3	395	313	82	24
2.	ソニーセミ コンダクタ 九州	26 26 17 ● ○ ● 28 23 21		28 32 22 △ ○ ● 28 28 29	15 26 25 ● ○ ○ 17 25 22	39 37 34 ○ ○ ○ 25 22 20	34 39 48 ○ ○ ○ 21 19 11	15	10	1	4	448	339	109	21
3.	広島 メイプル レッズ	21 23 24 ● ● ● 26 28 27	28 28 29 △ ● ○ 28 32 22		25 28 22 △ ○ ○ 25 23 18	35 33 36 ○ ○ ○ 29 21 15	39 35 35 ○ ○ ○ 16 10 20	15	9	2	4	441	340	101	20
4.	オムロン	20 23 25 ● ○ ○ 23 20 18	17 25 22 ○ ● ● 15 26 25	25 23 18 △ ● ● 25 28 22		32 31 32 ○ ○ ○ 14 22 6	33 37 27 ○ ○ ○ 11 11 11	15	9	1	5	390	277	113	19
5.	三重 バイオレッ トアイリス	23 17 18 ● ● ● 27 28 41	25 22 20 ● ● ● 39 37 34	29 21 15 ● ● ● 35 33 36	14 22 6 ● ● ● 32 31 32		33 21 27 ○ ● ○ 25 24 20	15	2	0	13	313	474	-161	4
6.	ＨＣ名古屋	17 12 21 ● ● ● 27 25 33	21 19 11 ● ● ● 34 39 48	16 10 20 ● ● ● 39 35 35	11 11 11 ● ● ● 33 37 27	25 24 20 ● ○ ● 33 21 27		15	1	0	14	249	493	-244	2

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

個人表彰

＜男子＞

■最優秀監督賞……………岩本　真典（大崎電気）
■得点王………………………藤山　岳士（トヨタ紡織九州）98 点　初
■フィールド得点賞………宮﨑　大輔（大崎電気）86 点　3 回目
■シュート率賞……………新　建二（湧永製薬）0.692　初
■７ｍスロー得点賞………東長濱　秀希（大崎電気）23 点　初
■７ｍスロー阻止率賞……甲斐　昭人（トヨタ車体）0.429（6/14）　初
■最優秀選手賞……………宮﨑　大輔（大崎電気）2 回目
■最優秀新人賞……………東長濱　秀希（大崎電気）
■ベストセブン
　ＧＫ　松村　昌幸（湧永製薬）初
　ＣＰ　村上　秀行（トヨタ紡織九州）3 回目
　ＣＰ　末松　誠（大同特殊鋼）4 回目
　ＣＰ　富田　恭介（トヨタ車体）初 2 回目
　ＣＰ　新　建二（湧永製薬）初
　ＣＰ　東長濱　秀希（大崎電気）　初
　ＣＰ　宮﨑　大輔（大崎電気）6 回目
■ベストディフェンダー賞……武田　享（大同特殊鋼）3 回目
■フェアプレー賞……大同特殊鋼　77 点／ 14 試合（5.5 点／試合）

＜女子＞

■最優秀監督賞……………荷川取　義浩（北國銀行）
■得点王………………………植垣　暁恵（広島メイプルレッズ）121 点　初
■フィールド得点賞………植垣　暁恵（広島メイプルレッズ）83 点　初
■シュート率賞……………高栖　由香（ソニーセミコンダクタ九州）0.808　2 回目
■７ｍスロー得点賞………植垣　暁恵（広島メイプルレッズ）38 点　初
■７ｍスロー阻止率賞……藤間　かおり（オムロン）0.463（19/41）　初
■最優秀選手賞……………上町　史織（北國銀行）　3 回目
■最優秀新人賞　…………石坂　美奈子（三重バイオレットアイリス）
■ベストセブン
　ＧＫ　田代　ひろみ（北國銀行）3 回目
　ＣＰ　新城　明奈（広島メイプルレッズ）初
　ＣＰ　高栖　由香（ソニーセミコンダクタ九州）初
　ＣＰ　植垣　暁恵（広島メイプルレッズ）初
　ＣＰ　上町　史織（北國銀行）4 回目
　ＣＰ　髙橋　恵（ソニーセミコンダクタ九州）2 回目
　ＣＰ　藤井　紫緒（オムロン）2 回目
■ベストディフェンダー賞……中村　香理（北國銀行）　2 回目
■フェアプレー賞 ……ＨＣ名古屋　80 点／ 15 試合（5.3 点／試合）

平成23・24年度　(財)日本ハンドボール協会・役員

役職名	氏　名	ふりがな	職務分掌	常勤・非常勤	生年
名誉会長	米　倉　　功	よねくら　いさお		非常勤	1922
会　長	渡　邊　佳　英	わたなべ　よしひで	国際	非常勤	1948
副会長	市　原　則　之	いちはら　のりゆき	上部団体・日本リーグ	非常勤	1941
副会長	多　田　　博	ただ　ひろし	国際・マーケティング	非常勤	1945
副会長	山　下　　泉	やました　いずみ		非常勤	1936
副会長	川　上　整　司	かわかみ　せいじ		非常勤	1938
副会長	鶴　保　庸　介	つるほ　ようすけ		非常勤	1967
専務理事	川　上　憲　太	かわかみ　けんた	マーケティング本部長兼任	非常勤	1947
常務理事	高　村　誠　一	たかむら　せいいち	総合企画室長・JHL委員長	非常勤	1960
常務理事	大　橋　則　一	おおはし　のりかず	総務本部長	非常勤	1967
常務理事	角　　紘　昭	すみ　ひろあき	普及指導本部長	非常勤	1942
常務理事	西　窪　勝　広	にしくぼ　かつひろ	強化本部長	非常勤	1954
常務理事	江　成　元　伸	えなり　もとのぶ	競技本部長	非常勤	1950
常務理事	志々場　修　二	ししば　しゅうじ	総合企画副室長	非常勤	1948
常務理事	蒲　生　晴　明	がもう　せいめい	総務副本部長	非常勤	1954
常務理事	藤　森　　徹	ふじもり　とおる	総務副本部長	非常勤	1947
常務理事	植　村　　彰	うえむら　あきら	競技副本部長	非常勤	1958
常務理事	田　中　　茂	たなか　しげる	ジュニアアカデミー	非常勤	1967
理　事	朝　生　和　光	あそう　かずみつ	社会人連盟	非常勤	1962
理　事	松　井　幸　嗣	まつい　こうじ	学生連盟	非常勤	1957
理　事	船　木　浩　久	ふなき　ひろひさ	高体連	非常勤	1956
理　事	稲　生　　茂	いなお　しげる	東ブロック（関東）	非常勤	1948
理　事	山　川　博　行	やまかわ　ひろゆき	中ブロック（北信越）	非常勤	1957
理　事	森　安　昭　雄	もりやす　あきお	西ブロック（中国）	非常勤	1948
監　事	伊　藤　宏　幸	いとう　ひろゆき		非常勤	1951
監　事	近　森　克　彦	ちかもり　かつひこ		非常勤	1945
参　事	齋　藤　仁　宏	さいとう　よしひろ	中体連	非常勤	1961
参　事	川　原　繁　樹	かわはら　しげき	高専体協	非常勤	1958
参　事	小　西　博　喜	こにし　ひろき	車椅子	非常勤	1932
参　事	小　島　収　治	こじま　しゅうじ	北海道	非常勤	1949
参　事	高　山　重　雄	たかやま　しげお	東北	非常勤	1947
参　事	杉　本　眞　一	すぎもと　しんいち	東海	非常勤	1943
参　事	中　村　博　幸	なかむら　ひろゆき	近畿	非常勤	1951
参　事	佐　藤　公　美	さとう　きみよし	四国	非常勤	1954
参　事	佐　藤　喜　一	さとう　よしかず	九州	非常勤	1940
参　事	坂　本　静　男	さかもと　しずお	アンチドーピング	非常勤	1950
参　事	関　　健　三	せき　けんぞう	ＮＴＳ	非常勤	1955
参　事	中　野　利　一	なかの　としかず	20万人会	非常勤	1950
参　事	堀　美和子	ほり　みわこ	総務（広報）	非常勤	
参　事	村　松　　誠	むらまつ　まこと	総務（財務）	非常勤	1951
参　事	近　久　紀　人	ちかひさ　のりひと	総務（機関誌）	非常勤	1951
参　事	笹　倉　清　則	ささくら　きよのり	普及（指導）	非常勤	1955
参　事	佐　藤　　靖	さとう　やすし	普及（学校教育）	非常勤	1954
参　事	大　原　康　昇	おおはら　やすのり	普及（ビーチ）	非常勤	1945
参　事	小　山　哲　央	こやま　てつお	普及（マスターズ）	非常勤	1945
参　事	大　村　　久	おおむら　ひさし	普及（普及指導）	非常勤	1948
参　事	山　本　　繁	やまもと　しげる	普及（小学生）	非常勤	1957
参　事	井　口　京　子	いぐち　きょうこ	普及（女性）	非常勤	
参　事	佐久間　克　彦	さくま　かつひこ	強化（医事）	非常勤	1960
参　事	田　中　　守	たなか　まもる	強化（情報）	非常勤	1958
参　事	後　藤　　登	ごとう　のぼる	競技（国際）	非常勤	1950
参　事	越　田　義　昭	こしだ　よしあき	審判（指導）	非常勤	1943
参　事	仲　田　　稔	なかだ　みのる	審判（国際）	非常勤	1958
参　事	矢田貝　拓　治	やたがい　たくじ	プロジェクト（公益法人移行）	非常勤	
参　事	松　本　　勇	まつもと　いさむ	プロジェクト（公益法人移行）	非常勤	
参　事	兼　子　　真	かねこ　まこと	事務局長（総務他）	非常勤	1954

第2回 チャレンジ・ディビジョン

日本ハンドボールリーグ機構　冨森 達人

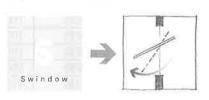
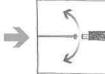
社会人になってもハンドボールを続けられることの喜び。これにはプレーヤー個々の熱い想いもさることながら、先人達が切り開き幾多の苦難を乗り越えながら守り育ててきた場所があるからこそ生まれる感情です。チャレンジディビジョン大会に参加しているチームもその場所の上で生かされて今日まで活躍できているチーム。我々は感謝の想いとともに、これからも社会人のハンドボールを発展させ、「飛躍」させていかなければならない使命を背負っています。

10チームが参加した第2回チャレンジディビジョン大会は、東西5チームずつに分かれてのリーグ戦を西地区が9月18日、学生チームの参加がある東地区は秋季大会を避けて10月末にスタートしました。第1回大会と同じく企業チーム、クラブチーム、国体チーム、学生チームがカテゴリーを超えて戦い、多くの接戦を繰り広げました。昨年よりもレベルアップしてきたチームが多く、実力差が縮まってきたこともあり、各地区上位2チームが進むことができる決勝トーナメント出場権争いも最終節までもつれました。混戦を制し決勝トーナメントに進出したのは、東地区が来年地元岐阜県で「清流国体」を迎えるHC岐阜、中部大学との直接対決を制し勝ち上がった大同大学。西地区は優勝の本命ともいえるHonda、今年地元山口県で「おいでませ！国体」を迎えるHC山口。準決勝第1試合、Hondaは大同大学に勝利し、昨年千葉の国体チームFOGに準決勝で敗れた雪辱を晴らすべく決勝に駒を進めました。一方、HC岐阜の下川選手、HC山口の東選手、二人の元日本代表選手が牽引する国体チーム同士の戦いとなった準決勝第2試合は、接戦の末に勝負どころで思い切りのよい攻撃を

みせたHC岐阜が決勝進出を果たしました。下川選手、東選手、Hondaの選手などトップリーグの上位で活躍した選手達がみせる質の高い動きは、他の若い選手たちの成長につながる好材料となっていて、自チームだけではなくチャレンジディビジョン大会のレベルを底上げする大きな効果をもたらしています。

3－4位決定戦はHC山口と大同大学が対戦し、7mスローコンテストまで戦った末に大同大学が勝利。HC山口は後半に意地をみせて追いつく粘りを見せましたが惜敗。大同大学が大健闘の3位獲得でした。何としても優勝を果たしたいHondaと第1回大会から比べ最もチーム力を向上させてきたHC岐阜の決勝戦は、両者一歩も譲らない素晴らしい試合となりました。Hondaは退場者を出し、終始苦しい戦いとなりましたが、優勝に向けた強い気持ちを最後まで切らすことなく戦いました。それを上回ったのがHC岐阜の今大会を通した勢いでした。特に接戦で常に先行していくチーム力には目を見張るものがあり、Hondaの追撃を振り切って見事な勝利でした。

決勝トーナメントも白熱しましたが、5位以下の順位決定戦も各チーム上位進出を目指した激しい戦いが展開されました。中でも初参戦のHC春日井はチャレンジ精神を持って最後まであきらめない戦いを見せてくれました。こうしたクラブチームが思い切って参加してきてくれることを大変嬉しく思い、地域に根差し、地域とともに成長するクラブチームが今後増えてくれることを願っています。

国体用に結成されたチームにおいては地元国体終了をもっ

て解散することが多く、素晴らしいチームをつくりながらも、継続して活動していくことが出来ない現状を大変残念に思います。経済面や活動環境などの維持は決して簡単ではないですが、もっと強く、もっと高い目標に向かって、社会人ハンドボールが「飛躍」していくために、地域をはじめ多くの力を結集させ乗り越えなければならない課題のひとつです。チャレンジディビジョンがそうした動きのきっかけとなり、志を高く持ったプレーヤーが真剣に打ち込める場となれるよう今後さらに発展させていきます。

今年の奈良大会では、西地区のチームが地元の小学生を対象に講習会を開催してくれました。こうした開催地での地域貢献にも力を注ぎ、社会人チームに対するご期待に応えていきたいと考えます。

最後になりましたが、多くの方々のご協力に支えられて今大会を無事に終えることが出来ましたことに心から感謝申し上げます。まだまだ多くの課題を残しておりますが、全国大会として恥じない大会運営にしっかりと取組んで参りますので、今後も暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

このたび東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を願い、被災地の皆さま、そして多くのハンドボールの仲間が明るく元気な笑顔をとりもどせるその日まで、チャレンジディビジョンも協力させていただきます。

《試合形式》
東地区・西地区各５チームによる１回戦総当りのリーグ戦の後、最終順位決定（戦東西上位２チームによる決勝トーナメントと東西３位以下のチームによる順位決定リーグ）

【東地区】星取表

	順位	岐阜	大同	中部	春日	トヨ	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	ＨＣ岐阜	＼	26 ○ 22	26 ○ 21	23 ○ 21	33 ○ 23	4	4	0	0	108	87	21	8
2.	大同大学	22 ● 26	＼	29 ○ 27	26 ○ 20	29 ○ 23	4	3	0	1	106	96	10	6
3.	中部大学	21 ● 26	27 ● 29	＼	34 ○ 24	34 ○ 25	4	2	0	2	116	104	12	4
4.	ＨＣ春日井	21 ● 23	20 ● 26	24 ● 34	＼	25 ○ 19	4	1	0	3	90	102	-12	2
5.	トヨタ自動車	23 ● 33	23 ● 29	25 ● 34	19 ● 25	＼	4	0	0	4	90	121	-31	0

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

【西地区】星取表

	順位	Hond	山口	MKA	八光	徳山	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	Ｈｏｎｄａ	＼	29 ○ 24	29 ○ 26	34 ○ 27	28 ○ 21	4	4	0	0	120	98	22	8
2.	ＨＣ山口	24 ● 29	＼	37 ○ 27	37 ○ 23	34 ○ 26	4	3	0	1	132	105	27	6
3.	ＨＣ・ＭＫＡ	26 ● 29	27 ● 37	＼	28 ○ 23	27 ● 28	4	1	0	3	108	117	-9	2
4.	八光自動車	27 ● 34	23 ● 37	23 ● 28	＼	33 ○ 27	4	1	0	3	106	126	-20	2
5.	徳山クラブ	21 ● 28	26 ● 34	28 ○ 27	27 ● 33	＼	4	1	0	3	102	122	-20	2

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

■順位決定リーグ

トヨタ自動車　19（13-9, 6-16）25　ＨＣ・ＭＫＡ
中部大学　30（15-14, 15-13）27　徳山クラブ
ＨＣ春日井　29（11-17, 18-19）36　八光自動車
トヨタ自動車　27（13-13, 14-17）30　徳山クラブ
中部大学　36（20-15, 16-18）33　八光自動車
ＨＣ春日井　23（8-16, 15-11）27　ＨＣ・ＭＫＡ
ＨＣ春日井　30（15-13, 15-14）27　徳山クラブ
トヨタ自動車　26（12-13, 14-13）26　八光自動車
中部大学　34（14-18, 20-16）34　ＨＣ・ＭＫＡ

■準決勝

ＨＣ岐阜　27（14-11, 13-12）23　ＨＣ山口
大同大学　25（10-16, 15-19）35　Ｈｏｎｄａ

■３－４位決定戦

ＨＣ山口　35（13-16, 21-18, 1-3）37　大同大学

■決勝

ＨＣ岐阜　29（14-13, 15-14）27　Ｈｏｎｄａ

《最終順位》

１位	ＨＣ岐阜	６位	ＨＣ・ＭＫＡ
２位	Honda	７位	八光自動車
３位	ＨＣ山口	８位	ＨＣ春日井
４位	大同大学	９位	徳山クラブ
５位	中部大学	10位	トヨタ自動車

東日本大震災による被害状況には心痛の日々が続いておりますが、被災者救済と被災地の一日も早い復旧が進むことを祈念いたします。

日本協会主催の岩手県花巻市で開催予定でありました「第34回全国高等学校ハンドボール選抜大会」及び、富山県氷見市で開催予定でありました「第6回春の全国中学生ハンドボール選手権大会」は、中止することに決定いたしました。

以下に、これまで大会に向けて専心努力してこられた出場チーム一覧を掲載いたします。

平成22年度第34回全国高等学校ハンドボール選抜大会［出場予定チーム一覧］

男　子

No.	学校名	ブロック都道府県名	回数
1	北海道旭川東高等学校	（北北海道）	初
2	北海道札幌月寒高等学校	（南北海道）	6
3	県立不来方高等学校	（東北・岩手県）	17
4	学校法人石川高等学校	（東北・福島県）	7
5	県立青森商業高等学校	（東北・青森県）	11
6	県立盛岡第一高等学校	（東北・岩手県）	6
7	県立藤代紫水高等学校	（関東・茨城県）	7
8	市川高等学校	（関東・千葉県）	15
9	県立富岡高等学校	（関東・群馬県）	22
10	法政大学第二高等学校	（関東・神奈川県）	11
11	明星高等学校	（関東・東京都）	17
12	浦和実業学園高等学校	（関東・埼玉県）	4
13	國學院大學栃木高等学校	（関東・栃木県）	12
14	横浜創学館高等学校	（関東・神奈川県）	22
15	北陸高等学校	（北信越・福井県）	21
16	高岡向陵高等学校	（北信越・富山県）	13
17	金沢市立工業高等学校	（北信越・石川県）	7
18	県立氷見高等学校	（北信越・富山県）	24
19	愛知高等学校	（東海・愛知県）	15
20	高山西高等学校	（東海・岐阜県）	3
21	市立桜台高等学校	（東海・愛知県）	14
22	県立四日市工業高等学校	（東海・三重県）	25
23	市立岐阜商業高等学校	（東海・岐阜県）	16
24	桃山学院高等学校	（近畿・大阪府）	13
25	府立洛北高等学校	（近畿・京都府）	12
26	神戸国際大学附属高等学校	（近畿・兵庫県）	3
27	県立法隆寺国際高等学校	（近畿・奈良県）	3
28	大阪体育大学浪商高等学校	（近畿・大阪府）	4
29	県立下松工業高等学校	（中国・山口県）	18
30	県立総社高等学校	（中国・岡山県）	19
31	県立岩国工業高等学校	（中国・山口県）	17
32	県立香川中央高等学校	（四国・香川県）	19
33	県立高松工芸高等学校	（四国・香川県）	5
34	興南高等学校	（九州・沖縄県）	21
35	県立小林秀峰高等学校	（九州・宮崎県）	13
36	県立福岡魁誠高等学校	（九州・福岡県）	初
37	熊本市立千原台高等学校	（九州・熊本県）	19
38	佐賀清和高等学校	（九州・佐賀県）	初
39	熊本国府高等学校	（九州・熊本県）	6
40	県立盛岡南高等学校	（開催地・岩手県）	3

女　子

No.	学校名	ブロック都道府県名	回数
1	北海道釧路商業高等学校	（北北海道）	5
2	北海道札幌南陵高等学校	（南北海道）	初
3	県立大曲農業高等学校	（東北・秋田県）	22
4	県立不来方高等学校	（東北・岩手県）	8
5	聖和学園高等学校	（東北・宮城県）	23
6	県立湯沢高等学校	（東北・秋田県）	4
7	埼玉栄高等学校	（関東・埼玉県）	6
8	昭和学院高等学校	（関東・千葉県）	29
9	県立麻生高等学校	（関東・茨城県）	2
10	県立荏田高等学校	（関東・神奈川県）	初
11	県立栃木商業高等学校	（関東・栃木県）	17
12	佼成学園女子高等学校	（関東・東京都）	16
13	白梅学園高等学校	（関東・東京都）	4
14	横浜創英高等学校	（関東・神奈川県）	6
15	高岡向陵高等学校	（北信越・富山県）	10
16	小松市立高等学校	（北信越・石川県）	26
17	県立氷見高等学校	（北信越・富山県）	14
18	県立愛知商業高等学校	（東海・愛知県）	2
19	県立飛騨高山高等学校	（東海・岐阜県）	10
20	県立四日市四郷高等学校	（東海・三重県）	4
21	暁高等学校	（東海・三重県）	33
22	名古屋市立向陽高等学校	（東海・愛知県）	2
23	四天王寺高等学校	（近畿・大阪府）	16
24	府立洛北高等学校	（近畿・京都府）	20
25	夙川学院高等学校	（近畿・兵庫県）	25
26	県立生駒高等学校	（近畿・奈良県）	3
27	宣真高等学校	（近畿・大阪府）	20
28	県立明石高等学校	（近畿・兵庫県）	3
29	県立和歌山商業高等学校	（近畿・和歌山県）	初
30	県立華陵高等学校	（中国・山口県）	12
31	高水高等学校	（中国・山口県）	8
32	県立岡山操山高等学校	（中国・岡山県）	初
33	県立高松商業高等学校	（四国・香川県）	20
34	県立香川中央高等学校	（四国・香川県）	10
35	県立那覇西高等学校	（九州・沖縄県）	10
36	県立大分鶴崎高等学校	（九州・大分県）	13
37	県立佐世保商業高等学校	（九州・長崎県）	2
38	県立鹿児島南高等学校	（九州・鹿児島県）	2
39	城北高等学校	（九州・熊本県）	2
40	県立盛岡第二高等学校	（開催地・岩手県）	15

平成22年度第6回春の全国中学生ハンドボール選手権大会［出場予定チーム一覧］

男子			
No.	都道府県名	学校名	回数
1	北海道	函館市立光成中学校	初
2	青森	野辺地ジュニア	2
3	岩手	矢巾町立矢巾中学校	2
4	宮城	仙台市立七北田中学校	初
5	秋田	湯沢市立湯沢北中学校	初
6	山形	東根市立第一中学校	3
7	福島	郡山市立郡山第一中学校	4
8	茨城	つくば市立手代木中学校	初
9	栃木	下野市立石橋中学校	2
10	群馬	富岡市立西中学校	初
11	埼玉	春日部市立春日部中学校	初
12	千葉	柏市立松葉中学校	2
13	東京	江戸川区立鹿骨中学校	初
14	神奈川	川崎市立西中原中学校	初
15	山梨	甲州市立松里中学校	2
16	新潟	柿崎ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙｸﾗﾌﾞ・柏刈ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙｸﾗﾌﾞ	3
17	長野	千曲市立更埴西中学校	3
18	富山	氷見市立西條中学校	2
19	石川	能美市立根上中学校	2
20	福井	福井市明倫中学校	3
21	静岡	LHC 静岡ハンドボールスクール	初
22	愛知	名古屋市立汐路中学校	2
23	三重	鈴鹿市立白子中学校	6
24	岐阜	ヴァルト岐阜	4
25	滋賀	彦根市立鳥居本中学校	2
26	京都	京田辺市立培良中学校	3
27	大阪	大阪体育大学附属中学校	4
28	兵庫	明石市立魚住中学校	初
29	奈良	生駒市立緑ヶ丘中学校	初
30	和歌山	紀の川市立那賀中学校	2
31	鳥取	境港市立第一中学校	4
32	島根	不出場	—
33	岡山	総社市立総社西中学校	3
34	広島	修道中学校	初
35	山口	周南市立岐陽中学校	2
36	香川	綾川町立綾南中学校	初
37	徳島	徳島市城東中学校	5
38	愛媛	松山市立椿中学校	2
39	高知	高知市立介良中学校	3
40	福岡	大野城市立大利中学校	初
41	佐賀	神埼・東明館中学校	初
42	長崎	佐世保市立日宇中学校	初
43	熊本	宇城市立松橋中学校	4
44	大分	大分市立鶴崎中学校	初
45	宮崎	小林市立三松中学校	5
46	鹿児島	霧島市立舞鶴中学校	2
47	沖縄	浦添市立浦添中学校	初
48	開催地（氷見市）	氷見市立北部中学校	5

女子			
No.	都道府県名	学校名	回数
1	北海道	函館市立凌雲・本通中学校	初
2	青森	野辺地ジュニア	3
3	岩手	盛岡市立松園中学校	2
4	宮城	仙台市立中田中学校	3
5	秋田	羽後町立羽後中学校	4
6	山形	尾花沢市立尾花沢中学校	3
7	福島	郡山市立郡山第一中学校	3
8	茨城	守谷市立けやき台中学校	初
9	栃木	栃木市立大平南中学校	初
10	群馬	甘楽町立第一中学校	3
11	埼玉	三郷市立北中学校	5
12	千葉	千葉市立花園中学校	5
13	東京	東久留米市立西中学校	6
14	神奈川	横浜市立中川西中学校	初
15	山梨	甲州市立塩山中学校	4
16	新潟	不出場	—
17	長野	千曲市立更埴西中学校	初
18	富山	氷見市立西條中学校	3
19	石川	小松市立南部中学校	4
20	福井	福井市安居中学校	初
21	静岡	静岡市立清水第二中学校	3
22	愛知	名古屋市立滝ノ水中学校	初
23	三重	四日市市立笹川・南中学校	初
24	岐阜	高山市立中山中学校	2
25	滋賀	彦根市立鳥居本中学校	2
26	京都	京田辺市立培良中学校	3
27	大阪	大阪ジュニアクラブ	2
28	兵庫	夙川学院中学校	初
29	奈良	生駒市立大瀬中学校	3
30	和歌山	紀の川市立荒川中学校	3
31	鳥取	境港市立第一中学校	3
32	島根	不出場	—
33	岡山	総社市立総社西中学校	初
34	広島	広島市立亀山中学校	2
35	山口	下松市立久保中学校	2
36	香川	高松市立香川第一中学校	5
37	徳島	徳島市城東中学校	5
38	愛媛	愛媛県立今治東中等教育学校	初
39	高知	高知市立城北中学校	5
40	福岡	福岡市立春吉中学校	3
41	佐賀	神埼市立神埼中学校	5
42	長崎	長崎市立小ヶ倉中学校	初
43	熊本	宇城市立松橋中学校	4
44	大分	大分市立明野中学校	2
45	宮崎	小林市立三松中学校	3
46	鹿児島	霧島市立舞鶴中学校	4
47	沖縄	浦添市立神森中学校	5
48	開催地（氷見市）	氷見市立十三中学校	3

ロンドンオリンピックに向けて②

今回は、オリンピック男女のアジア予選の過去の戦績です。本年10月開催のアジア予選では、久々、代表権を獲得できるよう応援お願いします。

オリンピック男子アジア予選経過

年	大会名	日程	開催場所	代表権獲得国（出場国）	参加国
1972	ミュンヘン	1971/11/14-28	11/14,17 東京→ 11/20 大阪→ 11/23 名古屋（県体育館）→ 11/26，28 東京　日本代表権獲得	**日本**	日本、韓国、イスラエル　3ヶ国
1976	モントリオール	1976/03/15-21	1次予選　タイペイ	**日本**	日本、韓国、台湾、イスラエル　4ヶ国
		1976/04/03.05	代表決定戦　イスラエル　日本代表権獲得		
1980	モスクワ	1979/11/17-23	1次予選　台湾（第2回アジア選手権）	**日本**（不参加）、クウェート	日本、韓国、中国、台湾　4ヶ国
		1979/12/07,09	代表決定戦　名古屋（市体育館）→東京　日本代表権獲得		
1984	ロサンゼルス	1983/11/12-20	11/12 三重→ 11/13 岐阜→（名古屋）→ 11/15 東京→ 11/16 神奈川→ 11/18 千葉→ 11/20 東京　日本代表権獲得	**日本**、韓国（IOC 推薦）	日本、韓国、中国、台湾　4ヶ国
1988	ソウル	1987/08/20-29	ヨルダン（兼第4回アジア選手権）日本出場権獲得	**日本**、韓国（開催国）	日本、韓国、クウェート、中国、台湾、バーレーン、シリア、ネパール、ヨルダン、パレスチナ　10ヶ国
1992	バルセロナ	1991/08/22-09/01	広島（兼第6回アジア選手権）　日本敗退	韓国	日本、韓国、クウェート、カタール、UAE、中国、台湾、イラン、バーレーン、サウジアラビア、シリア、北朝鮮　12ヶ国
1996	アトランタ	1995/09/25-10/06	クウェート（兼第8回アジア選手権）日本敗退	クウェート	日本、韓国、クウェート、カタール、UAE、中国、台湾、カザフスタン、バーレーン、インド　10ヶ国
2000	シドニー	2000/01/25-30	熊本（兼第9回アジア選手権）　日本敗退	韓国	日本、韓国、中国、台湾、イラン　5ヶ国
2004	アテネ	2003/09/23-28	神戸　日本敗退	韓国	日本、韓国、中国、台湾　4ヶ国
2008	北京	2007/09/01-10	豊田（まぼろし）	韓国、中国（開催国）	日本、韓国、クウェート、カタール、UAE　5ヶ国
		1/30/08	日本（代々木体育館）		日本、韓国
2012	ロンドン	2011/10/23-11/3	韓国・ソウル	?	?

オリンピック女子アジア予選経過

年	大会名	日程	開催場所	代表権獲得国（出場国）	参加国
1976	モントリオール	1975/02/09-19	アジアAゾーン決定戦　韓国	**日本**	日本、韓国、台湾、イスラエル　4ヶ国
		1975/02/28,03/02	代表決定戦　日本（会場名未発表）		
		1976/06/28-7/3	3大陸代表決定戦　ミルウォーキー　日本出場権獲得		
1980	モスクワ	1979/11/17-23	台湾　日本敗退	韓国	日本、韓国、台湾　3ヶ国
		1980/03/15-21	3大陸代表決定戦　コンゴ		
1984	ロサンゼルス	1983/11/13-19	函館　日本敗退	韓国（IOC 推薦）、中国	日本、韓国
		1984/02 末	3大陸代表決定戦　2国棄権により開催せず		
1988	ソウル	1987/08/20-29	ヨルダン（兼第1回アジア女子選手権）日本敗退	中国、韓国（開催国）	日本、韓国、中国、台湾、ヨルダン、シリア　6ヶ国
1992	バルセロナ	1991/08/22-09/01	広島（兼第3回アジア女子選手権）　日本敗退	韓国	日本、韓国、中国、台湾、香港　5ヶ国
1996	アトランタ	1995/04/06-08	韓国（兼第5回アジア女子選手権）　日本敗退	韓国、中国	日本、韓国、中国、台湾　4ヶ国
2000	シドニー	2000/01/24-29	熊本（兼第7回アジア女子選手権）　日本敗退	韓国	日本、韓国、中国、台湾、北朝鮮　5ヶ国
2004	アテネ	2003/09/23-28	神戸　日本敗退	中国、韓国（WCで獲得）	日本、韓国、カザフスタン、中国　4ヶ国
2008	北京	2007/08/25-31	カザフスタン	カザフスタン、中国（開催国）、韓国（IHF 最終予選にて獲得）	日本、韓国、カザフスタン、カタール　4ヶ国
		1/29/08	日本（代々木体育館）　＊CAS 裁定により無効		日本、韓国
2012	ロンドン	2011/10/12-20	中国・常州市	?	?

～被災者に笑顔を与えよう～

企画・広報委員
早川　文司

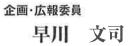
東北・関東地方を襲った巨大地震と津波、さらには福島原発の放射能汚染―。戦後最大の惨事である。スポーツ界にも大きな打撃を与え、多くのイベントが打ち切り、中止、あるいは延期となり、施設も被害を受けた。

ハンドボール界も例外ではない。日本リーグプレーオフが中止になり、レギュラーシーズンの成績が最終結果となった。また、全国高校選抜大会や春の全国中学生選手権も中止された。いずれも協会や関係者の迅速な対応だったが、出場を予定していたチーム、関係者は残念な面もあろう。しかし、大惨事を考えれば、開催に踏み切るにはよほどの“勇気”と“決断”が必要だったに違いない。プロ野球セ・リーグのような失態はなんとしても避けなければならなかったのは、当然である。

ハンドボール関係者も多くの人が被害に遭われただろうし、彼らのことを思えば競技どころではなかろう。また、被災地域の出身者も多く、彼らの心情を思えば、なおさらである。

今後は復興が急がれるが、惨状を思えば相当な期間が必要なことは容易に想像がつく。どんな支援の輪を広げるのがいいか。アスリートにとっては、やはり“復興への希望の灯”をプレーで表現するのがいいのではあるまいか。

街頭募金は多くの競技団体や各種団体が行ったし、義援金も集め「夢を与え、笑顔がはじける」イベントも開催された。

ハンドボール界はどんなプランを描くかだが、再試合となった五輪予選の時に掲げた「あきらめない」心意気を届けるのはどうだろう。特に子どもたちが笑顔、元気、明るさを取り戻すイベントはできないものか。子どもは将来の日本を背負って立つ希望の星だ。子どもたちに笑顔、元気、明るさが戻れば、家族はもちろん、周囲の人にも元気を与え、復興への大きなエネルギーになると思う。

「復興支援ハンドボール大会」と銘打ち、子どもたちを相手に１個のボールを中心にし、的当てゲームなど、だれでも簡単にできるメニューを組み合わせて一緒に遊べばいいと思う。日本代表メンバーが加われば、子どもたちの興味もまた膨らんでくるはずだ。スポーツはストレス解消にもつながる。ストレッチなら子どもだけでなく、お年寄りでも身体は動かせる。

被災地の人たちと手を携えて健康で明るさを取り戻すことは「日本人の底力」を取り戻すお手伝いになるのではないかとも思う。スポーツは人々に元気と勇気、そして感動を与える。被災地に球界挙げて「あきらめない」エールを送り、一刻も早い復興をあと押ししたいものである。

ヨーロッパのハンドボールLIFE

FCバルセロナ コーチング留学

高松大学ハンドボール部監督
花城 清紀

●はじめに

私は、平成18年3月～5月、平成18年10月～平成19年5月、平成20年4月～平成21年7月と3度、スペインのバルセロナへハンドボールのコーチング留学を行った。ここでは主に、3度目の留学であるFCバルセロナ（cadete Bという14～15歳のチームの第2コーチとして指導）について載せていきたい。

● FCバルセロナジュニアの指導方法

FCバルセロナのジュニアチーム（ここではcadete B）の指導方法についてここで紹介する。まず、ジュニアチームの目的は、上のカテゴリーで活躍できる基本技術（1－1、2－2、パスのテクニック、シュートテクニックなど）と精神面の強さ、将来性を兼ね揃えた選手の育成であった。このことにより、勝ちを最優先したトレーニング、技術やチームの複数プレーヤーが規則的に動くセットプレーなどはここで指導しない。そして、特に以下のような内容に重点を置き、指導を行っている。トレーニングは試合と同じような身体状態、精神状態を作り出すことが必要であることから1時間30分程度の比較的短い時間で集中的にトレーニングを行わせる。なお、トレーニングを行う者の人数は18人前後。これも限られた時間の中で常に全員が動いている局面を作り出すためである（これ以上の人数でトレーニングを行うと1人1人の休む時間が長くなり集中的なより試合に近づけたトレーニングを行わせることができなくなる）。基本的には1回のトレーニングを以下の3つに分け、行わせる。①ウォーミングアップ、②メイントレーニング、③クールダウン。ウォーミングアップの内容としては、様々な動き（フットワークを含めたものからフィジカルを含めたものまで）を用いた鬼ごっこや様々なスポーツ（サッカー、バスケットなど）の特性を考慮した遊戯的な運動を積極的に取り入れ、行わせる。このことにより、選手たちを飽きさせず、常に高いパーセントを維持した運動に取り組ませることができる。

メインのトレーニングでは先ほど述べたように、より試合に近づけたトレーニングを行わせる。シュートのトレーニングにしてもDF（ディフェンス）を用いた状態で、OF（オフェンス）であるパサーは前を狙った状態から速い正確なパスを出し、シューターは動きながらの捕球、DFに守られる前にシュートを打つなどのより実戦に近くなるような工夫を行う。パスが乱れる、またはパススピードが遅い、シューターは捕球してから動くなどの場合DFに守られてしまう。このように、FCバルセロナではより実戦に近くなるような工夫をトレーニングの中に取り込んでいる。次の段階ではパサーに対して強いコンタクトを入れたり、OFの人数を増やしてシュートやパスの判断をさせたりなどの工夫を入れるだけでさらに実戦に近づくトレーニングになったり、選手の意識を高く保つことが出来る。どんなに意味のあるトレーニングをしても毎回同じであると選手が手を抜いてしまうケースが多い。そこで技術を習得するポイントをしっかり保ちつつ様々なトレーニングを取り入れていき、常に選手たちを"楽しい""上達している"と思わせるような工夫を取り入れている。

●指導者に求められるコミュニケーションスキル

FCバルセロナの指導者は指導を工夫するのはもちろんのこと、コミュニケーションスキルにも長けている。指導者本人がやりたいハンドボールやトレーニングを選手たちに一方的に伝えるだけでは選手たちは自発的には動かないし、その考えを理解しようとはしない。いわゆるロボットのように言われたことだけしかやらなくなってしまう。コミュニケーションを行う上で重要になってくるのは受け手である。

FCバルセロナでは「いかに伝えるか」ではなく「いかに伝わるか」に重点をおいてコミュニケーションを図っている。受け手を中心に考えるということは受け手側の選手の事を良く知らなければならない。FCバルセロナの指導者は、積極的な選手との会話を通じて学校や家での出来事、またハンドボールについての考えを話させるようにしている。そこで選手たち自身の現場の声を常に聞き、理解しチーム作りに反映させるようにしていた。これが出来ていないチームはやはり、チーム力の低下を痛感している。私自身も実際にFCバルセロナで第2コーチとして指導を行った時、チームにやり

たいことを伝え、それを選手達に考えさせ理解させ行動させるということに悪戦苦闘の日々を送っていたが、選手たちとコミュニケーションを活性化させることによって、選手たちが徐々に自分の考えを理解し、自発的に行動してくれるようになった。

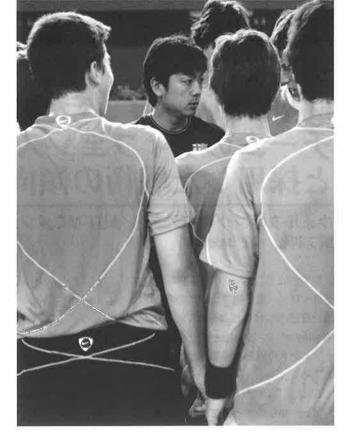
●リーグ戦による試合経験の差

次に私がスペインと日本の差を感じる要因となったものが、"試合経験の差" である。

日本のジュニア大会はほとんどがトーナメントにより組織されている。例えば年間7大会だとすれば、1回戦に勝ち抜けないチームだと年間7試合しかできない計算になる。しかも学校単位でのチームなので、上級生が引退する2学年の後半からしか試合に出ることができない。スペインの地域リーグ戦（例えば27チームあるとする）を例にあげると、この27チームを3つのグループに分け、そこで1次リーグ（9チームずつ）を行う（ホーム&アウェイで8試合×2＝16試合)。そして、各リーグを上位、中位、下位3チームずつが進む2次リーグ（9チームずつ）を行う（ホーム&アウェイで8試合×2＝16試合)。この地域リーグ戦だけでも年間32試合は出来る計算になる。しかも1年毎にチームが組織されているので3年間では96試合もの経験を積むことが出来るし、レベルによってリーグ編成されているので、力が均衡したチームと何十試合も経験を積むことができる。

ホーム&アウェイのメリットもかなり大きい。日本のトーナメントのシステムだと同じチームと試合をすることは稀であるが、このリーグ戦のシステムだと同じチームと何度か試合をするチャンスがあるので、反省・修正を明確にすることができる。確かに日本では週末に練習試合を組み、年間何十試合も経験を積むこともできるが、やはり公式戦とはかけ離れている。この積み重ねが経験となり、より実戦型の選手を育成することにつながっている。

●選手のメンタル面

FCバルセロナの選手たちのメンタル面（トレーニング、試合に臨む態度も含め）についてもやはり日本の選手との違いを感じた。FCバルセロナは世界的にも有名なビッグクラブであり、憧れのクラブである。そのため、基本技術がしっかりしている、将来性があるなどの限られた選手しか入団できない。入団後も自分の力をアピールできなかった選手は1シーズンでチームを去らなくてはならない厳しい環境が常につきまとう。そのため、選手たちは自分たちの力をアップさせるためにより有効なトレーニングを求めたり、自己アピールする努力を怠らない。

このようなことから必然的にメインのトレーニングでは緊迫感のある質の高いトレーニングを行うことが出来る。

●おわりに

以上スペイン、日本の両国でハンドボールの指導、組織運営に携わり気づいた点を述べてみた。歴史や文化の違いもあるだろうが、日本のハンドボール技術向上のためには海外の指導法やシステムを積極的に取り入れる必要があるだろう。そして、志高く世界に出ていくチャレンジ精神を持つ選手や指導者の方々が増えていくことを願っている。私自身も今後様々な経験を通して学んでいき、日本のハンドボールの発展のために貢献していきたい。

プレゼンテーション：EURO2010 メインラウンド進出チームのディフェンス、オフェンスと採用した戦術の傾向

ウォルフガング・ポラニー／AUT-MC メンバー教育とトレーニング
訳：村松　誠（駒澤大学）

今回掲載しますのは、昨年ヨーロッパ選手権開催時に、同時に開催された EHF トップコーチセミナーにおいて、ウォルフガング・ポラニー氏が講演された内容ですが、興味を抱きましたので訳してみたものです。同時並行で行われている選手権を題材に、すぐに分析結果をまとめているスピーディーさに驚きました。この訳の掲載については、ポラニー氏に掲載の許可を頂いたことを付記しておきます。

まず、ここでは、2008 年 MKD の女子ヨーロッパ選手権で見られた明らかな違いを述べなければならない。それは、“Northern” と “Southern” と呼ばれるオフェンスの違いを見ることができたことである。

これは、男子チームのオフェンスセットプレーからのケースではない。ほとんどのチームはオフェンスで全く同一の動きを使っている。おそらく、これは、6カ国以上のすべてのヨーロッパのリーグでナショナルプレーヤーが普通に離散して活動していることによるだろう。そしてそれらのそれぞれのコーチは、平均的グループ戦術のごく狭い地域を使うように見え、それは、この限られた状況からオフェンスパターンを選ぶことをナショナルコーチに強いているようである。このようなことと明らかに違ったディフェンスを示しているチームは、ロシアとウクライナであった。後でこのことに戻ります。

ディフェンスセットプレー

図は、ディフェンスセットプレーで見られた違いである。6－0システムの優勢は薄れ、5－1の変化型を多くのチームがプレーしているし、いくつかのチームは、3－2－1さえもプレーしている。

基本システム

6－0	5－2	3－2－1
CZE	AUT	SLO
DEN	CRO	
GER	ESP	
ISL	FRA	
NOR	RUS	
POL		

バリエーション

CRO	SLO	COR
SLO	GER	
AUT		
RUS		

このリストは、基本的な型のみ表している。

5－1をプレーする多くのチームは、ゲームの変わり目にこのシステムのままでプレーしてる。ドイツだけが6－0に戻している。

フランスは最も具体的なケースである。なぜなら、ポジションをとったプレーヤーに応じて、異なった対応をするからである。もし、このポジションが NARCISSE（No.8）によってプレーされたら、5－1のままにしている。KARABATIC（No.13）は、6－0に戻している。

スロベニアは3－2－1を4－2にシフトしている。もし、5－1にしていたら、そのままにしている。

クロアチアは3－2－1を5－1にシフトしている。理論的には、この5－1は変化させないままである。

男子で優勢なケースでは、多くのチームは5＋1をプレーしており、いくつかのチームは4＋2さえプレーしている。ときどき、5－1の “レッドインディアン” スタイルに変化させている。このプレーには、得点と残り時間に配慮する必須要因に明確な方針がない。時々、練習の理由のために使われる明らかな配置であるような感じさえした。

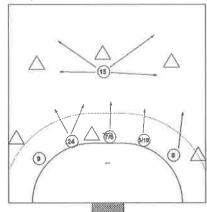
それぞれのシステムの基本的な配置において、次に見るような、いろいろなプレー方法があった。

5－1型

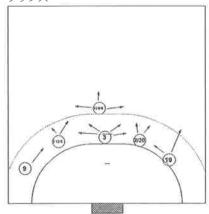
スペインチームは、大変新しいそして面白い5－1のプレーを示した。

左サイドは、プレーメーカー（センタープレーヤー・PM）に対しマンツーマンをするが、状況によりどちらの方向にも自由に動き、したがってかなり広い地域をカバーする。この方向の動きは、攻撃チームのサイドプレーヤーにボールがある時に、不規則に起こる。

このケースでは、ディフェンススペシャリストの1人（No.7、No.24、No.6）は、極端に高くなる。もし、左サイドにボールがある時、それらの両方が高くなるかもしれないときでさえ、もう一方の TOMAS（No.8）も同様にそれをプレーした。

スペイン

フランスの有名な5－1は、よりコンパクトで、9mまでだけで動いている。

すべての中央地域をカバーし、他のプレーヤーに指示をしている、スペシャリストとしての DINART（No.3）がいる。

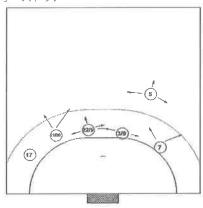
フランス

ボールを持って中央の半円形の動きは、ボールがない側の左と右の 45 度ディフェンスが、早い対角線のパスを防ぐ手段として高く動くポイントとなる地点でプレーされる。

両サイドは、ライン際をカバーしバックセンターをサポートするだろう。

オーストリアは、80 年代終わりにロシアによってプレーされた古い変わった５－１の復活を見せた。

要点は、攻撃チームの左 45 度（それか右 45 度）をカバーすることであり、その他はフリースロー地域のスペースをすぐに抑える。

反対側の２番目のプレーヤーは、高く動く。

オーストリア

オーストリアは相手チームの配置により、両側でこれをプレーした。

６－０型

アイスランドはスウェーデンの６－０をやめた。

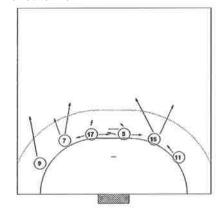
チームは厳しく中央地域をふさぐ二人のスペシャリストがいる(No.17 とNo.５)。右サイド（No.15）は右 45 度でディフェンスし、高く動く。そのうえ左 45 度も動く。

ボールを持っているプレーヤーは、ボールを持っている間厳しく守られる。

このケースの場合、ディフェンスチェンジは許されない。

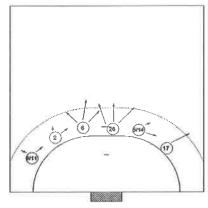
No.７とNo.15 の適切な先取りで大変コンパクトで小さなディフェンス協同を作っている。このシステムは大変に効果的であった。

ドイツ、ポーランド、チェコがこれと同様に大変似通ったプレーをした。

アイスランド

デンマークは、中央地域で高く動く二人のスペシャリスト（No.26 とNo.６）がいるよく知られたスウェーデンの６－０をプレーした。この二人の素晴らしい協同で、これは全くよく機能した。

他のプレーヤーは、接近戦が始まる地域をカバーした。

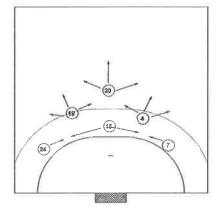
ノルウェーは、早い対角の攻撃的なパスに対して、左右 45 度それぞれのボールのないサイドに高く動くことによって、このコンセプトを発展させた。

デンマーク

３－２－１型

ここで、我々は“リベロ”のある３－２－１の復活を見た。このシステムは、80 年代に多くは普通にあった。スロベニアはこれをポーランド戦に、大変に体力的にそして、意図的にプレーした。

左サイドは要点の場所だった。ボールが飛ぶのに合わせてカバーするラインに動かなければならない“リベロ”をアウトサイドディフェンスはサポートした。

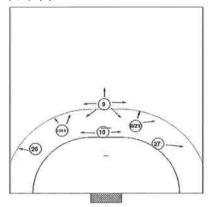
プレーヤーに課す体力は極端であり、しかも、このシステムは 60 分間すべてに使うことはできない。

スロベニア

クロアチアは、彼らの標準的な５－１のバリエーションとしてのオーソドックスな３―２－１をプレーした。

配置のイメージから、プレーヤー間の役割の配分に気付くだけの変化のあるチェンジはない。

このケースでは、両サイドは　サポートなしで直接の相手に責任がある。両 45 度は５－１より高い位置取りをする。

要のポジションのVORI(No.９)について言えば、その役割は大変に個人的であり、時々形の中に戻ってくることさえある。

クロアチア

オフェンスセットプレー

優勢なコンセプトは、45 度地域近くのアウトナンバー作りである。この達成は、ほとんどすべてのチームが２対２と３対２を解決することのグループ戦術を使っている。

攻撃プレーの核心的特徴は、決断をすることとプレーの継続である。継続は以下。

動き始める―決断―終了／継続―決断―終了

動き始めるためにすべてのチームはボ

ールを持って、あるいはボールなしでクロスのいくつかの種類を使う。これは、チームに動きの方向とスピードに明らかな利益を与える。

しかしながら多くのケースでは、プレーヤーは直接のディフェンダー動かすことができ、２番目のディフェンスが近い位置を取ることを強いる。したがって、継続状況を有利にすることができる。

これは、６－０ディフェンスをプレーするとき、特によい状況を得る。

■デンマーク

センターは右45度にボールをパスし、全力疾走でボールを受け取るボールのない左45度とクロスしに行く。

最初の結果―すき間を通して早いシュート

２番目― PM にパス

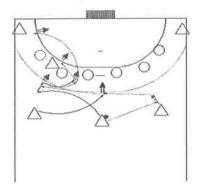
PM の継続

最初―左ポストを超えて早いシュート

２番目―逆に動きシュート

３番目―逆に動き左ポストにパス

４番目―逆に動き左サイドにパス

デンマークは、どちらか一方のサイドで PM の最初の位置で判断することによってプレーする。

■アイスランド

PM はまっすぐ進む。右インナーのプレッシャーを受けながら、利き手と反対の方に動く。クロスしてくる左45度にパスを戻し、外側に動き続ける。

左 45 度

最初―スピードに乗った走りから左45度はシュートを狙う

２番目―左インナーのプレッシャーと右インナーがとてもゆっくりしている―ポストにパス

３番目―左右インナーがパーフェクト― PM に速いパス

PM

最初―シュートかカットイン

２番目―動いているポストにパス

３番目―もし右サイドが走って来た時、左サイドにパス

アイスランドはこれを両サイドでプレーした。もちろん、もし必要なら、ディフェンスのミスの場合、PM から右45度へ直接パスや左45度から右45度へのパスをすることによって、左45度ディフェンスが右サイドにプレッシャーを続けるために内側に動いたケースの場合、簡単な解決をしていた。

■フランス

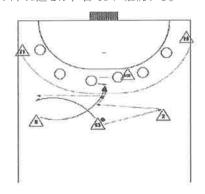
この動きは二つの局面から成り立っている。

スタートはデンマークの動きの様であるが、ポストの位置が異なっている。

左 45 度

最初―センターを通してジャンプシュート

２番目―右インナーによるプレッシャーを受けたら、PM にパス

最初の局面は、これに限定される。そして左45度ディフェンスの明らかなミスの場合にだけ、きちんとしたパスをポストに送るか、右45に継続する。

PM にボールが戻された後、１対１の突破活動を始める。

PM

最初―終結

２番目―左45度に続ける

左 45 度

最初―シュートを伴った全力の１対１

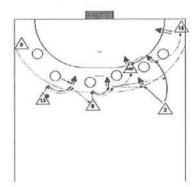
２番目―もし左インナーが詰めてきたら左にいるポストにパス

３番目―右45度にパス

右 45 度

最初―まっすぐに動く―ポストを越えてシュート

２番目―外側に動く―シュートかポストにパス

３番目―右サイドに展開

この動きは、幾人かのプレーヤーによって多くの決断を示している。プレーヤーがよい決断をしたらならば、このコンセプトが支持されることが可能であろう。しかし一方、ミスとその上悪い決定をする可能性がたくさんある。したがって、チームに説明することは常にトーナメント中によいリズムを見つけるいくらかの時間が必要に思える。

■スペイン

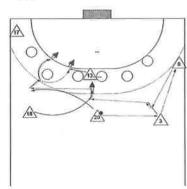
一度最初に個人的に動く。

左ポストはまさに中央に位置取りされて、右45度と右サイドでギブアンドゴー活動が加えられる。

これは、左45度が内側に走りこむ十分な時間を取る。

左 45 度

最初―左ポストを越してのシュート

２番目―センターへのパス

センターは完ぺきな１対１のスペシャリストを恐れる

現在の配置

最初―シュートを伴った１対１

２番目―動いている左ポストへのパス

■ポーランド

ポーランドは大変に大きな地域を動くチームである。

センターは左 45 度と一緒に、ボールなしでクロスに行く。しかし右 45 度は、効果的なダブルクロスのように、ボールを持って内側に回り込んでいく。

右 45 度

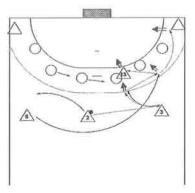
最初―左ポストを越えてシュート

２番目―長く移動した後の左 45 度にパス

右 45 度（左 45 度から走りこんで右 45 度になったプレーヤー）

最初―シュートかカットイン

２番目―ポストにパス

３番目―右サイドにパス

これはディフェンスのはっきりしたアウトナンバーを作るよい動きである。しかし、せまい４分の一地域に４人のプレーヤーの集中があることで、大きなリスクを伴う。

もし動きが不成功であったなら、相手チームが速攻に出る僅かなチャンスがある。この目的のために、二人のプレーヤーが置き去りにされるからである。

試合における２番目の問題は、ポーランド右サイドの良くない結末になる事が起きることである。これは、ディフェンスチームに攻撃中プレーヤーとシューターをその位置に置き去りにする機会を与えている。したがって、最初の場面で、ポストと右 45 度による危険なシュートを避けている。

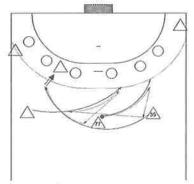
「フレームムーブ」と呼ばれるものと意思決定に基づく、これらすべての攻撃計画の明らかな明暗において、意思決定なしでの古いタイプの概念を提示したい。定着した枠組みと呼ばれるとして。

■ロシア

後ろに流れるダブルクロスは、PM によって始められる。

動きの終わりでは、ストライカーの目的はポストの上からのシュートである。

走るコースの長さは 12 mかそれ以上である。考え方は、ストライカーの身体的特徴とシュート力に基づいている。

システムは、GK とディフェンダー間の協同に問題を与える。間違ったサイドから効果的なシュートが両側で行なわれることである。

このシステムの弱点は、守備に対する意思決定が欠けていることで、そして、決してアウトナンバーを作らないことである。シュートからディフェンスの抵抗が出来ないということで、GK とディフェンダー間の良い協調を見つけなければならない。ディフェンスが成功したならば、システムは身体的、精神的両方に注意を続ける強いプレッシャーのため崩壊する。彼らは、長い距離を走らなければならないし、シュートが成功するか否かの選択の余地を見つけることが出来ない。とにかくシュートしなければならない。

いま、我々は６－０を攻める概念変化を見ている。

■スペイン

ボールの飛行コースに対して、左サイドの内側への回り込み。

左 45 度

最初―内側に回り込むかシュート

２番目―ピックアンドロールでポストと一緒に内側に回り込む

３番目－PM にパス

PM

最初―すき間を突いてシュート

２番目―右 45 度か、ポストにいる左サイドに展開する

基本的な考え方は、ボールの飛行コースに対してか同じ方向にいくつかのチームでプレーされた。決定的なポイントはポストの位置である。この特殊なポジションだけ、ディフェンスのアウトナンバーは必然である。なぜなら、右サイドディフェンスはポストの後ろになるだろう。しがって殺されるのである。

それで、右 45 度は適切に詰めることが出来ない。なぜなら、ポストへのパスの危険があるからであり、これは、右インナーが近ずく支援を強いるからである。これは、早いステップシューターを持つチームにとってはとても効果的である。（ジャンプシュートはもっと遠くなるであろう）

■クロアチア

４－２の配置から、バリッチ（№４）は、９ｍラインに沿って走り、ボールを受け取る。左インナーをブロックしているVORI（№９）のそばを通り過ぎる。

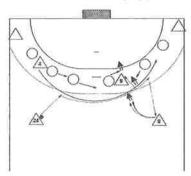
最初―シュートかカットイン

２番目―ポストへパス

３番目―右 45 度にパスを戻す。もしすべてのディフェンスがパーフェクトにやっていたら

右 45 度

最初―ポストを越えてシュート

２番目―右サイドへ斜めパス。もし左サイドディフェンスが移動中のバリッ

チに近づいたら

このコースの動きは、非常に広いし、バリッチの素晴らしいスキルと VORI との共同に合わせている。彼らのプレーする動きは、過去3年間かそれくらいの間、右 45 度のポジションに METLICIC がいることで、極端に効果的にプレーされた。

■ポーランド

PM は、ボールを持った左 45 度と砦を動かすクロスとスクリーンで始める。

左 45 度

最初—シュート

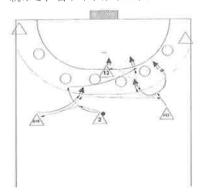
２番目—右 45 度にパス

このパスで、PM は対角線に走り続ける。

右 45 度

最初—シュート

２番目—どちらか一方のプレーヤーに６m上でパス

３番目—外側に動き、シュートを狙い続ける、右サイドかポストにパス

ポーランドは効果的な動きで５－１に対するのと同じ方法をプレーした。

対角線のパスは、一度パスされると、この動きは守るのがとても難しい。

このパターンの唯一の弱点は、右 45 度の実行力に依存することである。もしこのプレーヤーが素晴らしい体型であったならば、もしそうでなければ問題になる。

■アイスランド

PM とポストの間のダブルチェンジを含む４－２への移行

PM が少し遅れてボールに付いていく。そしてポストの戻る動きのためこれによってラインをひろげる。

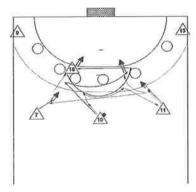
右 45 度

最初—シュート

２番目－ PM にパス

３番目—左 45 度へ対角線パス

左 45 度

最初—シュート

２番目—ポストへパス

ポーランドの動きに大変似ている。ダブルチェンジはディフェンスを困惑させさせる。右サイドにすぐパスをする右 45 度のための追加選択プレーである限り、５－１に対して応用する。（時々はディフェンスの後ろを通して）

６ｍラインに向かう PM の移動で、ボールを持った右 45 度との単純なクロス

右 45 度

最初—シュート

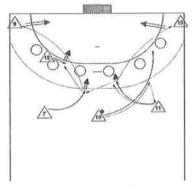
２番目—右サイドへのパス

３番目—左 45 度へのパス

左 45 度

最初—シュート

２番目—ポストへのパス

３番目—左サイドへのパス

アイスランドの基本的動き。６－０と５－１にプレーされる。

５＋１状況では、PM は 12 から 14 ｍに下がって右 45 度、左 45 度とクロスをするだろう。

この考え方は、６－５をプレーすると同様に極端な効果を示すであろう。

チームの多くの基本的考え方は５－１と同様に６－０に対しても応用される。

デンマークは６－０に対してスペインが行ったことを示したものと同様に、大変多く左サイドの回り込みをプレーした。

クロアチアとロシアは、５－１に対して広い地域を使った標準的なものを行った。クロアチアは再び、バリッチ、DUVNJAK と VORI の個人的技能に基づいた。ロシアは、観点を変える方法を見つけ出さなければならなかった。そして、長身のロングシューターの長いランニングコースを開けることをしなければならなかった。

５－１ディフェンスに対する具体的な考え方

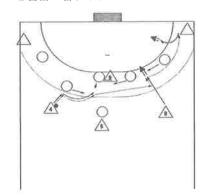
■クロアチア

プレーヤー本位の５－１フォーメーションに対して、バリッチ（№４）は左 45 度に動き、ボールを要求する。

このポジションでバリッチは、バックの位置で１対１を始める。もしセンターバックディフェンスの強いプレッシャーを上手く扱えたら、素早く右 45 度の対角へパスをする。

右 45 度

最初—シュート

２番目—右サイドへパス

これは、ロシアの原始的な標準手段になることが判明した。決定的な点は、２番目のサポートを強いることである。

ポイントはもし、守備のため戻ったら、バリッチは DUVNJAK（№５）にパスするだろうし、結果はほとんど利き腕の方に動く DOVNJAK に同様になる。そして、同じ方法でディフェンスがアウトナンバーになる。

デンマークは５－１ディフェンスに対してほとんどまったく同じ考え方を使った。

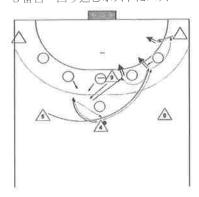
ボール本位の５－１ディフェンスに対する考え方

PM は、ボールを持って左 45 度とクロスに行く。

この動きは、ポストのピックアンドロールによって支えられる。

決定的な部分は、左45度が大変に早く走りパスをしなければならない、そしてパスは完全でなければならないことである。

この場合、左45度は3つのオプションがあるであろう。

左45度
最初―カットインとシュート
２番目―右サイドへのパス
３番目―回り込むポストにパス

フランスのディフェンスさえ、時々この広い動きに立ち向かった時、最終的に困惑していた。

その動きは、ハイスピードで当然大変効果的である。しかし、一方、このハイスピードの実行は、ミスと完全な意思決定の時に左45度にいくらかの問題を与えるかもしれない。攻撃のミスは、毎回起きるし、それで、トップスピードで実行する任務の複雑さのためである。

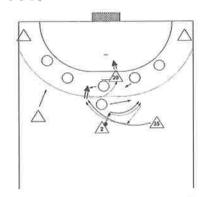
■ロシア

PMはボールを持って、右45度とクロスの動きで始める。そして、ボールを左利き選手にパスをする。

要点は、こちらのサイドでアウトナンバーを避けるため、PMと共に動かなければならない。

今、左利き選手はシュートのために長く走りながら、内側に回り込む。

追加のオプションはポストへのパスである。

もし、利き腕側から詰められたら、左サイドまで平行に進む継続はとても単純である。

この動きは、ロシアにとって最も効果的であった。そして、バリエーションと意思決定でモダンなものの一つであった。

FILIPPOV（№2）は、もしそうでなければその時点で違う方法を強いられた。それで、FILIPPOVは、自身でシュートを打つかポストにパスをした。いくつかのケースでは、右サイドに続ける動きであった。

最後に、これらの中心的要素のすべての観察を纏める事が出来る。

1．以前よりディフェンスセットプレーは大きく多彩になっている。いくつかのプレーは洗練され、再びとても魅力的に見えるようになった。
2．早いスローオフ（クイックスタート）は多くのチームで選択の一つであった。しかし特別に使われるだけであった。アイスランドとスロベニアは基本的考え方としてこれをプレーしたチームであった。すべてのチームはいまやそれをプレーされる可能性があった。
3．オフェンスセットプレーの標準的動きは、すべてのチームが大変に類似している。基本的原則は、最初の動きによってスピードの利益を得ることで、そしてこの利益を使って限られた地域にアウトナンバーを作ることである。
4．これを行う手段として、チーム戦術は消え去り、グループ戦術は必須の役割をプレーする2対2、3対2を意味する。チーム戦術に固執するチームは、厳しい後退を強いられ続けた。
5．意思決定は先に明確にした範囲で、成功のための決定的な要素である。意思決定の同じレベルでの早いチームプレー、それとも同じレベルのスピードでの意思決定の高いレベルのチーム管理は、試合に勝利するであろう。
6．反撃は最初のゴールキーパーのセーブからの直接パスだけでなく、パスミスやパスカットからの結果である速攻の得点としてとても極端に進歩している。
7．一人か二人のスペシャリストのオフェンスとディフェンスの交代は、まだ優勢である。それぞれのチームは少なくとも1人のスペシャリストを持つことによって。
8．16人の選手をそろえることは明らかに必要でない。時間を制御することは、コーチ達が普通に14人以上を使わないことをそれぞれの試合で見ることで、その選手のみで最後まで行った。多くのコーチ達は交替を嫌がり、ほとんどの競技時間でスタートの9人（7＋2スペシャリスト）でプレーを続けた。

平成22年度J.H.A.レフェリーコースに参加して

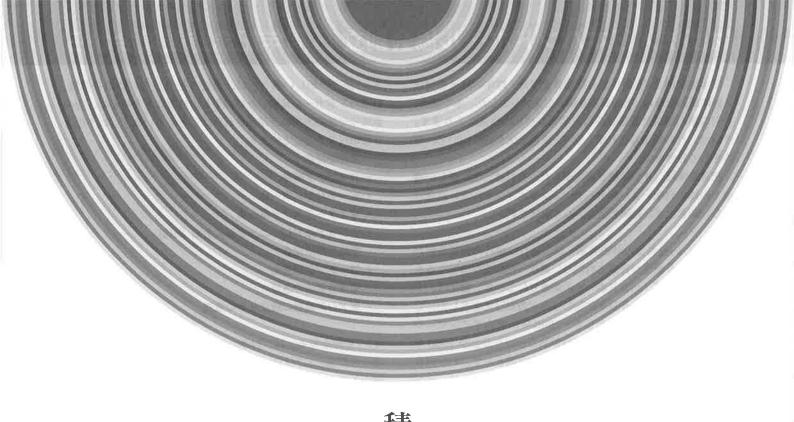
岡山大学3年 **江田優紀**（岡山県協会所属）、岡山大学2年 **渡邊達雄**（岡山県協会所属）

今回J.H.A.レフェリーコースに参加して、非常に貴重な経験ができたことに感謝の気持ちで一杯です。

前期（長浜ドーム大会）は高校生の試合を吹笛させて頂き、ハンドボールのレフェリーとしての基本的な指導を受けました。また、初日に行われた講義では、レフェリーとして、ハンドボール競技そのものと関わっていく姿勢や心構えについて改めて考えることができ、非常に有意義な研修だったと思います。この研修を通じて、貴重なお話を聞くことができましたし、レフェリングに対する私たちの考え方が変わっていきました。また、ペア間での課題を頂き、後期に向けて克服できるように各大会のレフェリーをさせて頂きました。さらに、越田審査指導委員長や植村審判長のご厚意により、JHL女子チャレンジリーグやJHL男子ウィンターキャンプでも吹笛する機会を得ることができました。日本のトップの試合を吹笛することによって、私たちの課題が次々と露呈されたと同時にもっと上達したい、もっと上を目指したいと思うようになりました。また、毎試合ペアで反省を繰り返し、罰則の基準・コートレフェリーとゴールレフェリーの任務分担・アドバンテージの見極めなど、目標を持って取り組んできました。また、国際審判員の藤井先生や大熨先生をはじめ、岡山県ハンドボール協会の先輩レフェリーの方々から熱いご指導を頂くことができ、本当に幸せな環境でレフェリー活動に臨むことができました。

後期（西日本医歯薬科学生選手権大会）では、前期からの7ヶ月間でどれだけ成長できたかということを見てもらおうという気持ちで吹笛しました。今まで指摘されなかった問題点や厳しいご指導を受け、自分たちの努力が全然足りなかった事を痛感しました。自分で意識してやっていると思っていることと周りから客観的に見られて指摘されることが違ったり、そういったギャップを埋めたりすることの難しさを改めて学ぶことができました。最終日には、中学生の試合を吹笛させて頂き、どのカテゴリーでも同じようなレフェリングができなければいけないというご指導を受け、自分たちの力量不足・レフェリーに対して認識・競技規則の理解の甘さを痛感しました。また、後期ではルールテストもあり、それに向けてほかの受講生と一緒に勉強したり、意見交換したりと、とても貴重な体験ができました。

レフェリーコースが終わり、私たちは自分たちのハンドボール観や、レフェリングについてもう一度見直していく必要があると感じました。特に、競技規則第8条と第16条、明らかな得点チャンスの定義などについて学び直す必要があると思います。そして、正当なプレーを大いに評価できるようになりたいです。さらに、ハンドボールのレフェリーとは何かという課題に対して、少しずつ答えが見えてきたように思います。ハンドボールのレフェリーとは、他のスポーツのレフェリーとは違い、2人のレフェリーが平等な権利を持ち、2人で1つでなければならないということです。その中で、プレーの正しい評価をし、ハンドボールの魅力を引き出すことが大切だと思います。選手が試合に勝つために厳しい練習を積んでいるように、私たちレフェリーもトレーニングしていかないといけないと思います。これから、ハンドボールをもう一度見つめ直し、ゼロからスタートをしたいと思います。

最後に、ご指導、審査してくださった先生方をはじめとする多くの先輩レフェリーの皆さま、研修の機会を与えて下さった関係者の皆さまに心より感謝しております。本当にありがとうございました。また、これからもご指導のほどよろしくお願いいたします。

財団法人日本ハンドボール協会創立75周年記念誌委員会から

日本協会創立75周年記念誌委員会では、昨年の発足を受け7回の議論を重ね、その概要を固めてまいりました。本年度は、資料収集の継続と原稿依頼など実務レベルの作業に入ります。今回は、この間議論されました75周年記念企画について、報告をしておきます。

記念企画は、4つの柱を立てました。それは、1）新しい視点での球史発掘、2）協会のターニングポイント、3）協会の新しい動き、4）史跡を見る、の4項目です。

1）「新しい視点での球史発掘」は、新しい資料の発見や新たな証言により歴史が見直されたり、異なった解釈が出てくるものです。例えば、ハンドボールの始まりについて、我々は、ドイツで発生してそれが日本に伝わったと教わってきました。しかし、IHFでの公式見解として、1896年に初めてデンマークのニューボーでプレーされた記録があるということが1990年に発表されています。このほかにも、本家説として、ハンガリーやチェコのハゼナ説などもあります。これらのことは、ハンドボールの価値や意味を考える上で大変重要な要素になり興味が尽きません。

このような観点で、以下のような項目を予定しています。

- ヨーロッパでのハンドボールの発生
- 大谷武一とハンドボール
- 1938年日本協会発足と1940年東京オリンピック
- 11人制から7人制へ
- オリンピックへのハンドボールの復活
- 脱学校スポーツの遅れ
- 頂点強化
- 「高等女学校」時代

2）「協会のターニングポイント」は、75年の歴史の中には、日本協会の進むべき方向に影響を与えた大きな出来事が幾つかあります。それらの出来事をもう一度振り返ってみて、これからの日本ハンドボールの方向を考える材料になると考えています。以下のような項目を考えています。

- 熊本男子世界選手権
- 北京オリンピックアジア予選再試合
- 東京オリンピック1940年、1964年、2016年
- イスラエル女子との密室試合
- 日本協会の財団法人化

3）「協会の新しい動き」は、最近の社会からの要請や背景、日本ハンドボール発展のための新しい施策などを中心に、その意味や今後の方向などが示されればと考えています。以下のような項目を予定しています。

- 女性委員会
- ドーピング問題
- ビーチハンドボール
- マスターズハンドボール
- ナショナルトレーニングシステム（NTS）
- 学校体育研究会
- コーチング研究会
- 指導者養成の進展
- 東アジア連盟の設立とその意義

4）「史跡を見る」は、日本ハンドボールが始まって、ハンドボールが盛んに行われた場所、名勝負が展開された場所など、球史を語る時にその舞台となったところを残して行きたいと思います。さらには、ルールの発展、ボールの変遷、ユニフォーム、競技用具の変遷など記録にとどめたいと考えています。以下のような項目を考えています。

- 内外ハンドボールの技術・戦術変遷史
- 松やにの伝来
- 体育研究所跡―国立競技場（神宮競技場）―神戸遊園地―西宮グランドー駒沢―藤井寺――宮競技場―大阪府立体育館―東京体育館
- ルール
- ボール
- ユニフォーム
- 競技用具

このほかにも、歴史博物館的なもの、ハンドボールに関する文化的資料も収集・掲載することも考えています。すでに幾つかの資料のご連絡をいただいておりますが、まだまだ全く足りないと言ったところです。ご自分の記録の中に貴重なハンドボールの資料があると思います。この記念すべき節目にぜひともご提供いただけますようお願い申し上げます。なお、ご提供いただきました資料に関しては、責任を持って返却いたします。

さらに新しくなりました！

NEU PREMIUM®

私も飲んでます！

山田邦子さんもご愛飲！

水道水を
水素豊富水に！

6カ月間
メンテナンス
不要

原材料は
1.5倍増量

水素(H_2)と有害な活性酸素の働き

体内の有害な活性酸素の蓄積は、環境、タバコ、酒、ストレス、紫外線などが原因の一つであると言われています。水素(H_2)はこの有害な活性酸素と反応し、水(H_2O)になり、お体を健康へと導いてくれます。
1日1.5ℓ～2.0ℓの水素水を何回かに分けて飲用する事が大事なポイントです。

特にこんな方におすすめ！

- 健康を維持したい方
- 激しい運動をする方
- 体調管理が必要な方
- ストレスのある方

※本製品は商品改良のため予告なく変更する場合があります。

www.dr-suisosui.com

株式会社 FDR・フレンディア
〒150-0041 東京都渋谷区神南1-9-2 大畠ビル5F 502号
Tel:03-5728-0132 Fax:03-5728-0138

フリーダイヤル 0120-372-132（みんなに いーみず）

水素についてもっと詳しくお知りになりたい方は下記のサイトをご覧下さい。
各大学機関が各学会誌に論文を発表しております。
http://suisosui.org/

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」3月入会・継続会員

【北海道】小島　収治【茨　城】稲吉　繁、田中　汀子【群　馬】伊　克巳【埼　玉】齋藤　和也、高田　誠
【千　葉】勝俣　裕二、速水　亮子、吉田　修、石橋　茂、石橋　美保【東　京】田村　公孝
【神奈川】杉山　義祥、植村　繁、鷲塚　賢士郎、渡邊　亜由美、平岡　秀雄【山　梨】千野　恒夫
【静　岡】宮岸　健次【愛　知】西村　亮治【大　阪】小森園多恵子【兵　庫】丸茂　康子【広　島】山根　温子
有田　忍【高　知】有光　正憲、佐賀　厚幸

【5月・6月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………

5月2日(月)～5日(木)　ＩＨＦ総会(モロッコ)
5月14日(土)　常務理事会(東京)
6月18日(土)　第3回理事会(東京)

HAND BALL CONTENTS May.

(登録チームの購読料は登録料に含む)

（財）日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第五一八号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成二十三年四月二十六日印刷 平成二十三年五月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 〇三－三四八一－二三六
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 川上憲太
定価 年間三三〇〇円